

岩国市英語教育推進計画

令和 5 年 2 月

岩国市教育委員会

目次

1	岩国市英語教育推進計画について	2
(1)	計画改定の趣旨	2
(2)	計画の位置付け	2
(3)	計画の期間	2
2	これまでの岩国市英語教育の取組・成果・課題	2
(1)	これまでの取組	2
(2)	成果	3
(3)	課題	5
3	岩国市が目指す英語教育	6
(1)	自分に自信と誇りをもち、 主体的・積極的に関わろうとする態度を養う	6
(2)	英語を運用する力を養う	7
(3)	思いや考えを伝え合う力を育成する	7
4	英語教育推進目標と施策の基本方向	7
(1)	英語教育推進目標	7
(2)	施策の基本方向	8
5	英語教育推進に向けて	11
(1)	推進体制	11
(2)	推進方法	11

1 岩国市英語教育推進計画について

(1) 計画改定の趣旨

グローバル化の一層の進展が予想される中、平成 25 年に文部科学省から「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が発表された。この計画においては、小学校中学年から外国語活動の実施、小学校高学年の教科化、これに伴い、中学校英語教育の高度化等が示されている。平成 28 年度に次期指導要領が告示され、移行期を経て小学校においては令和 2 年度に、中学校においては令和 3 年度に新学習指導要領が全面実施された。

岩国市では、新学習指導要領全面実施を受け、小・中学校の英語教育の充実をさらに図るとともに、これまで取り組んできた英語教育の成果と課題、本市の強みを生かした英語教育を推進する。本計画は、当初の予定どおり、従来の計画を、令和 5 年度からの第 2 次計画に改訂したものである。

(2) 計画の位置付け

この推進計画は、「岩国市教育基本計画～美しいまち岩国の教育～」を踏まえ、本市の英語教育の推進・充実を目的として、学校教育分野における具体的な方策や施策を示したものである。

(3) 計画の期間

計画期間は令和 5 年度～令和 9 年度までの 5 年間とする。

ただし、この期間中、文部科学省や山口県の方針や施策の展開を踏まえ、必要に応じて、見直しを検討し、計画を作成、実施することとする。

2 これまでの岩国市英語教育の取組・成果・課題

(1) これまでの取組

① 小中学校における英語教育への取組

小学校においては、平成 12 年度から開始された「総合的な学習の時間」において各学校が実態に応じた国際理解教育の一環として英語教育を実施してきた。また、平成 23 年度からの 5、6 年生での外国語活動実施に向け、平成 21、22 年度に外国語活動を市内全域で先行実施するとともに、岩国市教育委員会において研究校を指定し、研究校での実践研究の成果を広く市内で共有することで、より効果的な指導について研修する場とした。平成 23 年度以降、学習指導要領実施に伴い、文部科学省発行の教材「Hi, friends! 1・2」を活用し、第 5、6 学年において年間各 35 時間の外国語活動を実施してきた。

本市では、平成 25 年度から、市内一部の学校において 1 年生から外国語指導助

手（以下「ALT」という。）を配置し、1、2年生においては年間10時間、3、4年生においては、15時間の英語教育を実施することで、英語に親しむ場を設定してきた。平成28年度からはALTの配置を市内全ての小学校において行い、1年生からの英語教育を実施している。

中学校においても、令和元年9月からALTを国際交流支援員として、全学校に常駐配置し、中学校における外国語科の授業の充実、改善を図ってきた。

また、岩国市指定「確かな学力」事業における研究指定校での英語教育の実践や県指定「小中高連携英語教育推進校研究」指定校での実践を市内小中学校に公開することで、児童生徒のコミュニケーション能力育成の成果について共有してきた。

さらに、令和元年度から小学6年生及び中学3年生の児童生徒を対象に英語民間試験を導入したことにより、児童生徒の英語力の把握ができています。

なお、本市においては、令和2年4月より全ての小・中学校で小中一貫教育をスタートした。これにより、小・中学校9年間を見通し、一貫した英語教育を推進している。

② 小中学校の英語教育担当教員の指導力向上・授業改善への取組

全小中学校の英語教育担当が所属する「岩国市・和木町教育研究会」における英語部会（中学校）、外国語部会（小学校）において、授業研究会や講師招聘による研修、各学校の実践交流などを行っている。

山口県教育委員会から配置された英語教育推進教員（平成26年度に開始され、平成27年度より小学校教員1名、中学校教員1名の2名）が市内全ての小中学校を訪問し、TT（ティーム・ティーティング）で授業に入り、放課後にはミニ研修会を開催している。この訪問は、効果的な授業の進め方や活動例について協議し、各学校の実態に応じた研修となっている。

上記に加え、岩国市教育委員会では、英語教育推進教員を講師として夏季研修会を開催したり、外部講師を招聘して今求められている英語教育について指導方法を共通理解する岩国市英語授業力向上研修会を開催したりするなど、授業改善の機会を設けてきた。

また、小学5、6年生の児童を対象に、英語パフォーマンステストのソフトウェアを導入した。ソフトウェアを有効に活用することで、児童の英語力を客観的に評価し、結果を踏まえて各学校の指導体制の再構築につなげていくことが期待される。

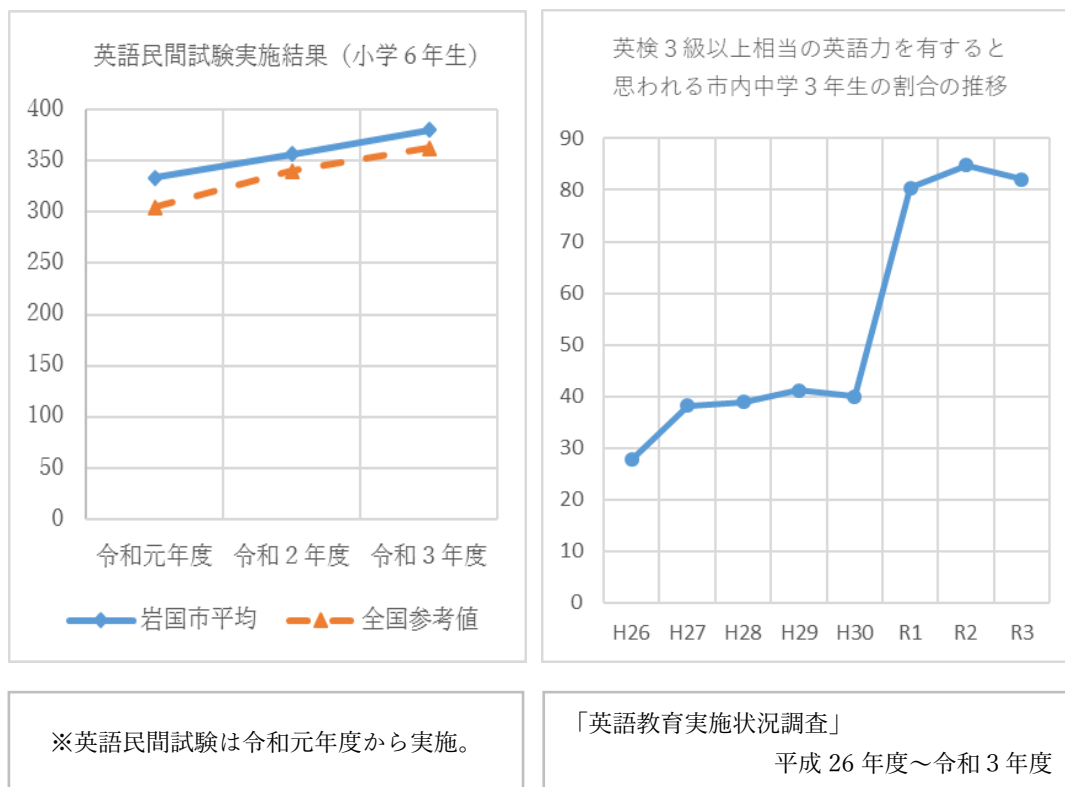
(2) 成果

① 児童生徒の英語力の向上

本市が令和元年度から小学6年生及び中学3年生を対象として毎年実施している英語民間試験の結果によると、小学6年生においては、いずれの年度も本市の平

均値が全国平均値を上回っている。

また、毎年全国で実施される「英語教育実施状況調査」において、「英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる」中学 3 年生の割合は、平成 26 年度には約 28% であったが、令和 3 年度には約 82% と大幅に上昇しており、生徒の英語力が向上しているといえる。



② 授業体制への取組

平成 27 年度から継続実施している英語教育推進教員の訪問が全学校に浸透し、より効果的に授業を進めることができるようになり、授業の質が向上するとともに、学校間の質の格差が縮小した。

中学校においては、全ての中学校に国際交流支援員が常駐配置されたことにより、授業だけではなく、授業外においてもネイティブスピーカーと英語で触れ合う機会が充実した。

③ 特色ある取組の推進

市内に基地があるという特性を生かして、一部の学校では基地内に住む親子、基地内学校に通学する児童生徒と交流の機会を設定した。このような英語を使う場としての体験活動を設定することで、英語を使う楽しさを味わうことができ、さらなる英語学習への意欲の向上につながっている。

(3) 課題

① 教員の英語指導力の向上

小学校においては、学級担任が「英語を話すモデル」としての姿を示したり、授業中に意識的にクラスルームイングリッシュ（授業内で使われる英語）を使用して授業を展開したりするなど、指導力の向上が図られているが、一方で、教員によって英語使用の差がみられることもある。

中学校においては、「言語活動を通して」という視点のもと、4技能をバランスよく育てていくことが求められるが、中には日本語使用の多い文法解説中心の授業も見受けられる。

また、小中共通の話題として、TTのパートナーであるALT・国際交流支援員の有効活用が挙げられる。下表のとおり、ALT・国際交流支援員の配置時数を年々充実させてきたが、授業のねらいや指導方法について十分な共通理解が図られておらず、効果的な活用ができていない場面もみられる。

		小学校						中学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
平成29年度	岩国市（内ALT）	10（10）	10（10）	10（10）	10（10）	35（20）	35（20）	140（6）	140（6）	140（6）
	学習指導要領	0	0	0	0	35	35	140	140	140
平成30年度	岩国市（内ALT）	10（10）	10（10）	15（15）	15（15）	50（40）	50（40）	140（6）	140（6）	140（6）
	学習指導要領（移行措置）	0	0	15～35	15～35	50～70	50～70	140	140	140
令和元年度	岩国市（ALT）	10（10）	10（10）	35（15）	35（15）	70（40）	70（40）	140（6）	140（6）	140（6）
	学習指導要領（移行措置）	0	0	15～35	15～35	50～70	50～70	140	140	140
令和2年度 令和3年度	岩国市（内ALT）	10（10）	10（10）	35（20）	35（20）	70（50）	70（50）	140（40）	140（40）	140（40）
	学習指導要領	0	0	35	35	70	70	140	140	140

平成29年度～令和3年度 ALT及び国際交流支援員 年間配置時数

② 小中連携による学びの接続

岩国市では、小学1・2年生から年間10時間の外国語活動に取り組んでいるため、小学3年生に進級したときには20時間の学習によるレディネスが備わっている。児童にとっては既習の内容が小学3年生の教材の内容に含まれているため、授業にあたってはそれまでの知識・技能を活用した言語活動を工夫し、さらに慣れ親しませる手だてが必要となっている。

また、小学校での「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の活動から中学校での「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の活動へのつながりや、小学校で身に付けた能力・学習内容・指導方法等の中学校との接続が十分ではない。

小学校で「話すこと」「聞くこと」の活動に慣れ親しんできた児童の強みを生かした指導の工夫が必要である。

③ 児童生徒の英語力・学習意欲向上のための言語活動の充実

言語活動を意識して設定する場面が多くみられるようになっているが、児童生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題を設定し、その目的を達成するために必要な言語材料を取捨選択して活動できるようにすることに課題がある。

3 岩国市が目指す英語教育

岩国市において英語教育を進めていくことで、岩国市の子どもたちに自国や他国の文化について理解することを通して豊かな国際感覚や英語力を付け、英語を通して主体的にコミュニケーションを図ることのできるグローバル人材の育成を図る。

今後、今以上にグローバル化が進み、様々な場面において世界の国々の人々と主体的に協働していく環境になっていることが予想される。この中で重要なのは、互いの文化や考え方の違いを理解しながら、自分の意見を述べたり、他者と交流したりして共生する力である。人工知能（AI）が発達する中、言語の壁は、テクノロジーの発展により乗り越えることができる可能性もあるといえる。しかしながら、コミュニケーションを図るとは、「言葉が分かる、通じること」だけではなく、「互いを理解しながら話し合ったり、伝え合ったりする」ということである。学校においては、英語教育を推進していくとともに、体験活動等を通じて英語力やコミュニケーション力を育み、違いを理解しようとする豊かな心を育成していくことが求められる。

英語教育では、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、文部科学省の「英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて(アクションプラン)」に基づいて、次のことに重点を置いて推進する。

(1) 自分に自信と誇りをもち、主体的・積極的に関わろうとする態度を養う

英語教育において、外国語や異文化への興味・関心、学習意欲をもち続けるとともに、人と主体的・積極的に関わろうとする態度を養うため、まず、外国人と触れ合う機会や英語で交流する体験を通して異文化に触れ、これにより自分自身を見つめ、アイデンティティーを確立することを目指す。また、人前で自分の思いや考えを英語で発表する機会を小学校から充実させ、小学校での取組を中学校の取組へとつなげることで、自分から英語で話しかけたり、ジェスチャーやアイコンタクト、豊かな表情や反応を工夫して思いや考えを伝えようとしたりする態度を身に付ける。できるようになった喜びが自信に、また自国や自分のよさを知ることが自分への誇りにつながる。

このように、自信や誇りをもちながら世界とつながる体験をさせることで、英語を使って主体的・積極的に関わろうとする態度を育てる。

(2) 英語を運用する力を養う

小学校での英語教育から中学校での英語教育の接続や系統性を考慮し、CAN-DO リストを活用し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5領域について着実に育成し、英語を運用する力の基礎を養う。授業改善を進め、小中連携を図った英語教育を通じて、小学校においては「英語を使えるようになって楽しい」「中学生になったらもっと使えるようになりたい」と英語に対する興味・関心をもつことができるようにする。中学校においては、「小学校で学んだ英語を使う場面があり、学習がつながっていることが分かった」「世界の人たちと英語を使ってもっと話してみたい」と学習意欲を高めることができるようにする。

(3) 思いや考えを伝え合う力を育成する

「思いや考えを伝え合う力」とは、英語だけでなく全ての教科において育成していくべき力である。英語の授業において、学んだ英語を使って自分のことを話す、学習した成果を英語で発表する、児童生徒が互いに英語で意見を交流するといった言語活動をしっかり取り入れることで、児童生徒が英語を使って思いや考えを伝え合う力を育成する。外国語科だけではなく、他教科でも互いの思いや考えを理解し、ともに学び合おうとする態度を養うことで、グローバル化する社会においても自分の思いや考えをしっかりと伝えることができる人材の育成を目指す。

本市の児童生徒が、岩国市に育ったことに自信と誇りをもち、様々な文化などの背景をもった世界の多種多様な人々との出会いを楽しみ、互いの文化の違いを理解しつつ、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿を目指して、英語教育を推進する。

4 英語教育推進目標と施策の基本方向

(1) 英語教育推進目標

令和2年度（小学校）令和3年度（中学校）の新学習指導要領全面実施を受け、小中学校のさらなる円滑な接続を図った、岩国市の新しい英語教育を推進する。

本計画期間中に取り組む諸施策について、以下の内容を基本として推進する。なお、各施策は予算措置を担保するものではなく、財政負担を伴うものについては、別途予算化に向け協議・調整を行うものとする。

(2) 施策の基本方向

○ 新しい英語教育の指導体制の確立

岩国市では、令和2年度から始まった小中一貫教育を有効に機能させるため、市内共通の「CAN-DO リスト」を活用したり、各校がこれまでに作成した「CAN-DO リスト」を見直したりすることで、小中学校の更なる円滑な接続ができるようにする。

また、これまで取り組んできた小学1年生からのALT配置による英語教育の早期開始や中学校への国際交流支援員の常駐配置、英語民間試験による生徒の英語力の把握、英語学習への意欲向上、授業改善への取組強化を引き続き実施する。また英語教育に係る研修会を充実・強化し、小中学校教員やALT・国際交流支援員との共通理解と指導力向上を図る。

目標1 授業改善への取組

① 「CAN-DO リスト」の活用と公表及び児童生徒の達成状況の把握

市内共通の「CAN-DO リスト」をもとに、各学校でアレンジ・活用する。また、児童生徒・保護者・地域に公表する。加えて、児童生徒の達成状況を把握しながら学びの定着を図る。

また、「英語版 CAN-DO リスト」を作成し、ALT・国際交流支援員と共有することで、協働的なTTの促進の一助とする。

② 小中学校の授業改善

【小学校】

- ・低学年で学んだことを中学年で活用し、学びの定着を図るとともに、失敗を恐れず挑戦する意欲を養う。
- ・フォニックスを活用し、英語らしい音声に十分慣れ親しませることと、文字への興味・関心を高める指導の工夫を行うことにより、高学年での「読むこと」「書くこと」への活動に円滑に移行できるようにする。
- ・スモールトークの指導方法を軸に、自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動をそれぞれの学年の言語レベルに応じて展開する。(中間指導含む)
- ・市の特色であるALTの配置時間数の多さを活用し、ALTとのやり取りにおいて、学級担任・教科担当(専科教員)が英語を使う学習者モデルを効果的に示す。

【中学校】

- ・授業は英語で行うことを基本とし、技能統合型の授業を学年に応じた適切な言語活動の中で展開することを通して、「話すこと」及び「書くこと」の発信能力に重点を置きながら、「聞くこと」「読むこと」を含めた4技能をバランスよく育成する。

【小学校・中学校 共通】

- ・児童生徒の学習段階や実態に応じて、CAN-DO リスト形式による学習到達目標に基づいたループリックの作成・活用、形成評価としての自己評価（他己評価）について、次の単位につなげる視点をもつようにする。
- ・教科書の題材をひと工夫でアレンジし、目的・場面・状況の設定を明確にすることで、児童生徒の心を動かし「思考・判断」をさせ、そのことを「表現」したくなる「単位構想」をバックワードデザインする。
- ・言語活動を「通して」という「漆塗り型単元計画」による指導を行うことで、単元の1時間目から言語活動を仕組んでいき、「理解してから取り組む」から「取り組みながら学ぶ」授業づくりを進める。
- ・「思考力・判断力・表現力」「主体的に取り組む態度」を重点に評価するパフォーマンステストを実施することで、児童生徒が自分の伸びを実感し、次の課題をつかめるようにする。

③ 小中学校の授業交流・連携

各中学校区での授業交流を通して、児童生徒の理解を深めるとともに、英語教育に係る学習内容・指導方法の円滑な接続について授業研究・取組の連携を図る。

④ 指導と評価方法の改善・充実

CAN-DO リスト、ループリックを設定して指導・評価方法を工夫し、指導と評価の一体化を図る。また、主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法等の改善・充実を図る。

目標2 英語指導力・英語力向上に係る研修のさらなる実施

① 英語授業力向上研修会の実施

外部講師を招聘し、今求められている新しい英語教育の動向について、公開授業等を通して共通理解する場を設ける。

② 英語教育推進教員による研修会の実施

英語教育推進教員が市内の小中学校を訪問し、授業後の振り返りを行い、指導内容や方法の指導助言を行う。また、クラスルームイングリッシュの使用等、教員の英語力向上に関する実技研修、授業改善に向けた指導力向上研修などを推進する。

③ ALT・国際交流支援員を交えた研修会の実施

英語による研修会を実施することで、教員の英語力向上を図るとともに、最新の研修等による「指導方法を共有する」ことで、協働的な TT を促し、児童生徒の 4 技能の力を向上させることにつなげる。

④ 英語民間試験の結果の活用

英語民間試験受験後、事後報告研修会を設け、生徒の成績をもとに、指導に対する評価と改善を図る。教員だけではなく、ALT・国際交流支援員も成果と課題を共有することで、指導に生かせるようにする。

目標 3 学校における英語環境の充実・強化

① 国際交流支援員のさらなる活用

外国語科の授業だけではなく、他教科の授業や学校行事においても国際交流支援員が参加することで、外国人との交流が当たり前になるようにする。

② 英語パフォーマンステストソフトウェアの活用

ソフトウェアの活用や操作の方法について、研修会などで教員に周知し、児童が英語を話す、聞く活動の機会を増やすとともに、スピーキングテストの実施や評価にも活用する。

○ 英語を使ったコミュニケーション・体験活動の充実

英語を学習する目的を明確にしたり、英語を学習する意欲を向上させたりするために、英語を使ったコミュニケーションを伴う体験活動を充実させる。岩国市には、米軍基地もあり、その人材も活用することで英語を使って交流する機会を増やす。

目標 4 英語を使ったコミュニケーション・体験活動の充実

① 英語での交流・体験活動の充実

イングリッシュキャンプ等の英語で交流するイベントや、基地内の子ども、親子との交流活動など、小中学生対象の英語による体験・交流活動の導入を推進する。

② 近隣大学との連携による留学生との交流活動の推進

児童生徒がいろいろな国の人と積極的に関わる機会をもてるように、近隣大学と連携して留学生との交流活動を実施する。

5 英語教育推進に向けて

(1) 推進体制

「岩国市英語教育推進委員会」が主体となって英語教育を推進する。

【構成メンバー】

小学校市教研外国語活動会長の校長、中教研外国語部会の校長、山口県立岩国高等学校教員、英語教育推進教員（中）、英語教育推進教員（小）、小学校英語専科教員（4名）、中学校教員（1名）、大学教授、市教育委員会に属する者（4名）

- ・推進委員は推進委員会の方針や施策に基づいて、各学校の英語教育を推進する。岩国市における英語教育の計画や取組の状況・成果について推進委員会で報告する。
- ・推進委員会については、学校教育課が運営する。

(2) 推進方法

文部科学省の動向や方針に合わせて、市全体としての取組を共通理解する場を適宜設ける。